

※ 各地ロータリーだより

1. 大牟田R・Cは4月21日10時(於大牟田市公民館)よりと変更になりましたので御通知致します。

※ 出席報告

1. 本日の出席 会員37名 出席31名 欠席6名
2. 前回の出席率 会員38名 出席30名 欠席8名  
他クラブ出席6名 出席36名 出席率94.74%
3. 他クラブ出席 函館R・C 97.14% 函館東 97.33%

—— 年次総会 ——

選考委員により次年度理事は下記の方が選出されました。

外山定雄君 船矢健喜智君 深瀬鶴一郎君 俣野純夫君  
市川芳夫君 戸栗力君 味崎英一君 以上7名

新理事は1週間以内に会合し、会長、副会長、幹事、会計、S・A・Aを選出致します。その後次期の各委員長、委員が決定されます。

「春」3月17日～23日はロータリー世界理解週間であります。日本のロータリーは、大先輩、米山梅吉氏によつて移入されて45年、既に760クラブ、3万6千人の会員の増加をみたことを、われわれはなんとなくあたり前の様に思っているが、実は、これは誠に驚嘆すべき偉大な事実であります。我々の従事している仕事、ある程度の成績をおさめ、この世の中でどうやら満足して暮らせることは、まことに有難いことであり、申すまでもなく地域社会の御蔭であり、日本という良い国に生れたお蔭であります。であるからこの社会の恩に対して、幾分なりともお返しするのが人間の道であり、ロータリーの精神であります。「友」地区委員 熊谷松男氏

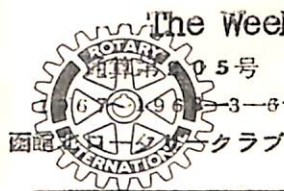
季節の味

「寒ぶりの塩焼き」

天下にどろいた五島ぶりを、寒い日に焼きたてに大根おろしを添え、油のじゅうじゅういつているのを、ふうふう吹きながら喰べる程うまいものはない。  
福江 松本規純会員

※ プログラム委員より

本日のプログラム会員卓話(谷口会員)はプログラム変更のため延期となりましたので御知らせ致します。



本日のプログラム

会員卓話 「続セメント雑話」 谷口勇君

野の若芽と共に春の光がしのびよる3月は世界理解週間です。国際ロータリー会長メッセージは、他国の人々の問題によく通じ、これが理解を深めることが肝要であると指針されて居り、私達はロータリアンとしての資格を効果的にしているか否かを再検すべきときでもあります。

※ 司会 俣野会長 ※ 斉唱 我等の生業

※ ゲスト 国田嘉秋氏(北海道新聞函館支社次長)

※ ビジター 鎌田定助君(網走R.C 水産販売)  
東政治郎君(函館) 外7名 森岡勝君5名(函館東)

※ 会長挨拶

梅のたよりが、内地から「ちらほらとあるのに、本日の会場の窓には粉吹雪の冬景色。然しながら一日一日と春の足音は近づいて居る様に感じられます。

※ 幹事報告

次年度役員は下記の通り決定になりました。

函館北ロータリークラブ 1968年～1969年度

会長(理事)	深瀬鴻一郎		
副会長(理事)	外山定雄	船矢健喜智	戸栗力
	俣野純夫	宮崎英一	
	市川芳夫		
幹事	下郡山信一		
副幹事	角谷隆一		
会計	高田誠二		
S、A、A	岩塚陽一		
副S、A、A	山辺繁樹		

※ ニコニコ、ボツクス

- 1、お誕生日おめでとうございます。青柳会員 山形会員 菊地会員、高田会員 成沢会員 森会員 高杉会員 船矢会員
- 2、お結婚記念 高田会員
- 3、入会記念 高田会員

※ 出席報告

- 1、本日の出席 会員37名 出席28名 欠席9名
- 2、前回の出席率 会員37名 出席31名 欠席6名  
他クラブ出席5名 出席合計36名 97.3%
- 3、他クラブ出席 函館R.C 98.12% 函館東 97.33%



卓話 「温室育ちの日本選手団」 国田嘉秋氏

グルノーブルで開催された第10回冬季オリンピックには日本から76名の選手が参加し、その技を競つたのであるが、入賞は皆無。日本初の金メダルが期待されていた男子スピードスケート5百メートルの鈴木恵選手も14日朝行われたレースで不運にも第3コーナーでふらつき40秒8に終り入賞も逃がして仕舞ふと悲運は、世界新記録を樹てる事も容易でなく優勝する事も容易でないが、それより増して面倒な事は4年に一度のオリンピックで優勝する事があります。4回優勝の記録を持つ鈴木恵選手が若さのケラー選手(西独)に金メダルを持ち去られたのは何故であろうか。

終戦後敗戦の日本に希望と期待を集めさせ「飛魚フルハン」と言われた古橋選手もオリンピックでは惨敗した事を想起し、何故だろうか と再び考えさせられるのであります。一本勝負のオリンピックのきびしさは、かけがえのない僅かのミスで今までの精進を全部御破算にして仕舞いオリンピックに勝つことのむずかしさが今更痛感されます。結論として日本選手には技術以前に神経の弱さ所謂「温室育ち」の選手が多いと言う事が、言われる様であります。

語学のコンプレックスがあるとしても、諸外国若しくは日本のレスリング選手の如く国際性もなく、なんとなく緊張と孤独。もう少しゆとりが必要であります。現状の如き状態であれば次回札幌大会でも優勝はおろか、入賞も困難であると予想され、「日本選手団の構成が学生を主体としたものでなく、毎日の生活の中に喰い込んだ職業人の層を厚くする事」が大切であると存じます。

また大会の運営に対する感覚が問題であります、グルノーブル大会は施設はすべて都市づくりの手段であり市民の生活に結びついている事があります。

オリンピックの華である開会式場はパイプでつくつたスタンドであり全般的に質素なもの。華麗豪華と言われた東京大会を想起するとき、国民性の相違につき深く考えさせられるものを今回は特に感じた次第であります。



The Weekly Report Hakodate North R.C.

通巻第106号  
1958-3-13  
函館北極星クラブ

第190回例会

例会場 函館拓銀ビル  
例会日 毎週水曜日  
12.30~13.30

本日のプログラム  
会員卓話 「続セメント雑話」 谷口勇君

ロータリー世界理解週間 —— 3月17日~23日  
「アフリカ旅日記 マルタ島 ベレッタ」

RI会長 ルーサーH. ホツジス

今回の訪問旅行の最終地であり、この旅行の最後のしめくくるのにふさわしく気持ち良いところであつた。ベレッタR.Cで行なわれた会合には、イタリー本土とツシリー島からも相当数の代表団が参加してくれた。これらイタリーのロータリアンは、マルタロータリーを創るために努力してくれた人々である。

英国総督およびマルタ共和国の総理大臣も招待された。人口30万ほどの島の経済はこれまでの英国基地に依存していた。しかしこれからは自力で国を築いていかねばならず、産業と観光の振興に力を注いでいる。137番目のロータリー加盟国となつたマルタは、立派なクラブをつくつて幸先よいスタートを切つたと言えよう。今回の旅行で私達は結局22カ国を訪ね、22のロータリークラブで話をした。大過なくこの旅行を終えることが出来たのは、訪問先の会員諸君の協力のおかげであると感謝している。

アフリカ諸国のロータリーは強力であり、発展を続けてい。訪問したどこの国に於いてもロータリーはよく理解され好感をもつて受け入れられていた。小さな国の小さなクラブを訪問した私達の気持はきつと報いられるだろう。各クラブとも素晴らしい反応を示してくれ、私達も彼等が何を欲しているかを知る事が出来たと思ふ。

- ホツジス会長は昨年11月2日より12月6日まで歴代のRI会長が未だ訪問した事のないアフリカ各国のロータリー視察旅行をおこない、非常に興味深いアフリカ旅日記を発表されましたので、「ロータリーの友」3号月を御熟覧ください。



\* 司会 外山副会長 \* 斉唱 手に手つないで  
\* ビジター 小幡彌太郎君(札幌 農業教育)  
外山健吉君外7名(函館) 飯田貞一君外4名(函館東)